

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当施設は「入居されている利用者が地域の一員として、その人らしく生き生きと生活し、安心して暮らせるようお手伝いします」を運営理念としています。これまで暮らしてきた家庭や地域での役割や得意なことを生かして生活して行けるよう支援していくことを目指しています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>H20年に管理者と職員全員及び運営推進会議にて話し合い、新しい運営理念を決めました。一人ひとりの介護計画に運営理念が実現されるよう目標に入れて、その実現に向けて日々介護しています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の代表者である運営推進会議においても、新しい運営理念について話し合い、結果の報告をしています。家族会にもこのことを伝え、広報誌でもPRしています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>利用者の散歩時、隣近所や畑づくりをしている人とも馴染みとなり、利用者と会話をしたり野菜を分けてくれたりします。また、近所に住んでいる方がボランティアで草取りをしてくれます。</p> <p>町内会に入会し、施設の夏祭りに参加を呼び掛けたり、町内会の行事に参加して交流を目指しています。認知症普及活動として、平成21年2月に、手始めに運営推進会議委員(地域の代表者)と職員とで認知症介護基礎講座を体験するミニ講座を開催しました。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来4年半を経過しているが、職員の離職が殆どなく、病気で退職しても体調に合わせて時間を少なくして再雇用するなどなるべく利用者や馴染みの関係を築けるよう配慮しています。育児休業や介護休業などの制度を活用して職員の状況にも配慮しています。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の資格や経験年数に応じて研修計画を立て、所内外の研修受講や介護福祉士資格の取得を勧めています。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者や職員は、西北五グループホーム協会の研修に参加して情報交換したり、市内や近隣の他GH管理者と電話や訪問で利用者処遇の問題や空床の有無など情報交換しています。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員はすれ違いが多い為、連絡ノートを活用して連絡事項はもちろん疑問や問題点も記入しており、運営者(管理者兼任)も目を通して、必要があれば月1回の定例会議で話し合って不安の軽減に努めている。また、節目には職員の交流会を行っている。</p>		<p>H20年10月には介護労働安定センターの産業カウンセラーの先生を当事業所に派遣していただき、メンタルヘルスセミナー(出張セミナー)を受講しました。</p>
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は管理者・看護師を兼任しており、常時GHに居て勤務状況を把握し、会議では気軽に意見を話し合っけてケアの質の向上に努めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の誕生日には家族を招待して誕生会を開き、共に祝う機会を作っています。遠足やショッピングには家族の参加をお願いしています。また、本人が困っている時や体調が悪く不安な時には、家族にも連絡して同席してもらったり、アドバイスをもらうようにしています。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会の時には、まず本人が出来たことや頑張っている点などプラス面を伝えたり、作品を見てもらいます。また、本人には家族が本人を思っていることを伝えていきます。お誕生会には家族を招待し、本人のエピソードや得意な事を話してもらい、本人を大切に思っていることを伝えてもらいます。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の生活に近づくよう、希望の場所(美容院やスーパー、自宅など)への外出支援をしています。信頼を寄せている家族や友人との面会や電話での会話を希望した時はかなえるよう支援しています。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常的に利用者同士が関わりあったり、支えあえるよう言葉掛けや誘導を行なう努力をしています。利用者同士の相性や関わり方、作業やレクの場合など常に座る位置に配慮し、孤立することが少なくなるよう気をつけています。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	認知症や病気の重度化・悪化で入院が長期化し契約が終了しても、その後の施設の紹介や、介護認定の手続きへの支援など継続して支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人一人の思いや暮らし方の希望をセンター方式に記録し、本人が望む生活に近づけるように検討している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族、在宅時の担当ケアマネジャー等からこれまでの情報収集を行い、センター方式に記入して把握しています。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>センター方式の記入により総合的に把握する様努めています。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を活用してアセスメントを行い、サービス担当者会議で検討した介護計画は家族に説明し、本人・家族の思いが反映されているか確認した上で作成するようにしています。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じた見直しはもとより、計画変更が必要な場合も、家族・本人に聞き取りを行い、新たな計画を作成しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35</p> <p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の個別記録の記入とセンター方式による状態像の把握により情報を共有し、援助や介護計画に活かしています。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36</p> <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>一時帰宅する場合や手続き上本人が行かないと出来ない場合など福祉車両で送迎したり、家族が亡くなり利用者にも見送りさせたいという家族の希望を受け、自宅まで送迎をして付き添うなど柔軟な対応をしています。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37</p> <p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>運営推進会議に各々参加していたたき、意見交換や助言を受けています。また、地区文化団体協議会会員となり、秋の文化祭に出品しています。</p>		
<p>38</p> <p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人や家族の意向があれば、地域のケアマネジャー、デイサービス職員と情報交換し、デイサービスや認知症対応型のデイサービスを利用することについて支援していきたいと考えています。</p>		<p>利用者の友人や親戚がデイサービスを利用しており、馴染みの人と交流を続けさせたいとの思いから、家族やデイサービス職員と話し合い、体験利用する支援を実施しました。(利用には至りませんでした。が、グループホームに尋ねてきてくれるようになりました)</p>
<p>39</p> <p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター所長が委員として参加して下さり、運営全般や権利擁護・ケアマネジメントについてアドバイスをいただいています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援し、他科を受診する際もかかりつけ医に紹介状を書いてもらい、その後も他科の情報提供をしています。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の認知症専門相談医療機関で治療を受けている利用者は現在2人おり、職員と家族が同行したり、職員が代理受診し、利用者の状況をその都度報告して状態に合わせた治療を受けられるように援助しています。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者と開設当初から関わっている管理者が看護師であり、常勤で勤務している為、常時健康管理への支援をしています。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時は、担当の看護師に看護情報提供書により情報提供をしています。たまに病棟訪問すると共に退院が近くなったら連絡して欲しい旨を伝えておき、退院前に家族とともに退院後の注意点を聞き、対応に努めています。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族へは看取りの方針を説明し、本人と家族の終末期の過ごし方の意見が一致した時は看取りの同意書に記入をお願いしています。かかりつけ医から終末期であることの説明がなされた時は家族と職員が同席して伺い、繰り返し話し合い、その経過について職員へも伝達し、共有するよう努めています。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医に相談しながらチームとして取り組んでいく事は定例会議などで話し合っているが、出来ること・出来ないこと、或いは終末期に向けた詳細な取組み内容など、資料の整備はしているが、独自のマニュアル化したものはなく、今後の課題である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜や山菜などの簡単な下ごしらえ・食器やトレーを布巾で拭いてもらうなど出来る手伝いを職員と一緒にしています。また、職員も交代で一緒にテーブルで同じ食事を摂るようにしています。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物でもそれぞれの好みの物を用意したり、家族の差し入れのおやつや飲み物を好きな時に飲食できるよう支援しています。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙おむつを使用している方でも日中はハリハピリパンツに履き替え、時間やタイミングを見計らってトイレ誘導して、トイレでの自排泄を促しています。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決めているが、その日の一人一人の体調や生活リズムによって入るタイミングを調整しています。また、一人一人の好みの温度に調整したり、入浴剤の使用など心がけています。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入所前夜遅くまでテレビを見る習慣のある利用者、食後すぐ横になりたい利用者など一人ひとりの状態に合わせて睡眠が取れるよう支援しています。また、眠れない時は無理に寝かせつけるのではなく、飲み物を勧めたり話し相手をして落ち着いてから寝るよう支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人1人の生活歴や得意な事をセンター方式で把握し、雑巾縫い、料理の下ごしらえ、新聞読み、外出支援などそれぞれ気晴らしや得意なことをしてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しまい場所は忘れるが、どうしても自分で小遣いを持ちたいという利用者があり、家族の同意と協力を得て、小額の小遣いを本人の財布に入れて持たせています。また、買い物に出かけたときは本人の力に応じて立替金を用意し、使えるよう配慮しています。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い時の散歩や隣接の芦野公園での散歩、外でのレクリエーション、スーパーへの買い物など、一人ひとりの希望や体調に添って出かけられるよう支援しています。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回の家族を誘っての遠足、秋の地区文化祭(利用者の作品展示)の見学、年2～3回のスーパーやジャスコへのショッピングなど、家族も誘い一緒に外出できる機会を設けています。利用者が家族と共に地区内で外食したり、墓参りや法事に参加することへの支援も行っています。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話で話したいという希望がある時は、いつでも話せるよう支援しています。年賀状や季節の挨拶状を出すよう準備し促しをしています。遠方におられる家族へは写真や最近の様子の便りを郵送しています。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者にはいつでも気軽に訪問できる事を伝え、自室に椅子や座布団、飲み物を用意し、ゆっくり面会できるように配慮している。帰りには、訪問してくれたことを利用者が喜んでいることを伝えるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員参加で高齢者虐待防止の事業所内研修を行い、その実現に向けてケアに取り組んでいます。		1名のみ家族の同意を得、腰ベルトとベッドセンサーを使用しています。使用しないことを目指して計画し、段々使用する時間を短くしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けるという行為も虐待に含まれることを職員全員が自覚し、夜間以外は施錠していません。どうしても落ち着かない方がいる時は玄関の感知センサーを作動させ、鍵をかけない工夫をしています。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して居室に入るときは声をかけてから入室し、夜間は安眠を妨害しないよう巡回して安否を確認しています。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	間違って洗剤等も飲んでしまうような利用者には、必ず職員が付き添って物品を使用させ、軽度認知症で裁縫や料理を長年馴染んでしてきた方には針やハサミなど見守りしながら使用させています。		注意が必要な刃物や薬品・介護用品の保管場所に鍵がなかったため、鍵付の場所に保管をするようにしました。
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの記録を行い、定例会議で再発防止の為の対策を検討して防止策を実行するようにしています。また、認知症ケアに関するマニュアル、事故発生対応マニュアルの中の再発防止策を読み合わせし、防止に努めています。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生対応マニュアルを作成し、読み合わせすると共に、救命法の講習を定期的に受講して初期対応が出来るよう備えています。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を置き、消防計画により年2回の避難訓練を実施し、内1回は地元消防署立会いの下で行われています。日ごろから近隣の地域の人たちや町内会長とも話し合い、互いに助け合う事を話しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こり得るリスクについてケアプランにも盛り込み、家族に説明しています。また、新たなリスクが発生した場合は、その都度対応やケアについて説明しています。職員で話し合い利用者にとってストレスの少ない対応策を考えるようにしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は発熱や痛み、皮膚の状態など利用者の体調の変化を発見した時は、看護師に伝え、看護師は対応を個人記録に記載しています。さらに連絡帳にも書いて職員全員で経過観察や対応策がある時は実施するようにしています。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の記録に日常服用している薬の説明書をファイリングし、共有化を図っている。特に注意を要する薬は、薬の本やインターネットで副作用を調べ添付している。副作用がある薬を服用している時は、管理者(看護師)が職員に定例会議や薬が変わった都度観察点を話し、経過観察している。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘が心身に及ぼす影響を理解しており、日々の排泄の記録を行っている。栄養士と定期的に給食会議を開き、繊維質の多いメニューを検討したり、水分量のチェックを行って必要量を摂れる様援助しています。散歩や腹部マッサージ、便秘予防の体操などを行うと共に、無理のないよう下剤や座薬を使用しています。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔内の清潔保持は感染症の予防となる事を認識し、毎食後それぞれの状態に応じて口腔内の清掃が行われる様支援しています。また、義歯は週2回ポリドントで消毒しています。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立に基いて調理を行っています。食事や水分の摂取量を1日を通じて個人記録に記入し、調理法も義歯のない方、飲み込みがスムーズでない方など個人の状態に合わせて工夫しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	それぞれの感染症に対するマニュアルの定めにより、各感染症が流行しているときには、手洗いやうがい、共用の場所の消毒など実施しています。また発生した時に備えて消毒セットを用意します。必要時は面会や外来者にも消毒に協力していただいています。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用品や食器はそれぞれ熱湯やアルコール、ハイターで消毒を行い、食材は朝配達されたら、すぐチェックし冷蔵庫で保管しています。また、福祉施設の衛生管理に準じて、検食や食材の保管を実施しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や玄関周りに四季折々の花を植えたり、ベンチを置いたりして家庭的な雰囲気づくりをしています。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からの音が大きい時はアコーディオンカーテンを閉めたり、テレビや音楽CDの音量にも配慮しています。天窓の光も強すぎないようにフィルムを貼ったり、トイレ・洗面所やホールには四季折々の花を飾って季節感を出すよう努めています。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の椅子の他に所々に余分な椅子を置いて、その時々で気が合った利用者とは並べるようにしています。一人でくつろいだり、或いは複数で団欒できるようホールの2箇所にソファを置いています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>ホールが広いので、テーブルを寄せるとミニ運動会やボランティアの手踊り等の披露を行うことが出来、レクリエーションに生かしている。また、平行棒を置いて、リハビリを行ったり、悪天候で外の散歩が出来ない時も、音楽をかけながらウォーキングをして楽しんでいる。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

3年以上継続勤務の職員が8割あり、馴染みの関係づくりが出来てきていると感じられます。利用者の持っている力を生かそうと、歩行練習や日常の活動への参加に誘い生き生きした表情が折りに触れて見られています。